

■東京記念（SI）アラカルト（過去全 55 回の分析）

※第 1 回（昭和 39 年）から第 14 回（昭和 52 年）までは「東京オリンピック記念」の名称で実施

※第 1 回（昭和 39 年）から第 37 回（平成 12 年）まではハンデキャップ競走として実施

※第 44 回（平成 19 年）から第 54 回（平成 29 年）までは SII として実施

※記録は令和元年 8 月 28 日時点

■ 1 番人気馬の 3 着内率は 7 割弱

単勝 1 番人気馬は 20 勝、2 着 12 回、3 着 5 回で、3 着内率が 67.3%、単勝 2 番人気馬は 9 勝、2 着 11 回、3 着 6 回で、3 着内率が 47.3%、単勝 3 番人気馬は 10 勝、2 着 7 回、3 着 10 回で、3 着内率が 49.1%となっている。もっとも前評判の高い馬はそれなりに信頼できるレースと言えそうだ。

■ 上位人気馬が 1～3 着を占めた例は 5 回

過去 55 回のうち 39 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を取めた。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 17 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフイニッシュ決着は 5 回ある。

■ 優勝を果たした馬の 7 割弱は馬齢が 4～5 歳

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 4 勝、4 歳が 23 勝、5 歳が 15 勝、6 歳が 7 勝、7 歳が 4 勝、8 歳が 2 勝となっている。4～5 歳が全体の 69.1%を占めている点に注目したい。

■ 牝馬は 4 勝、外国産馬は未だ優勝なし

牝馬の優勝例は第 29 回（平成 4 年）のドラールオウカン、第 30 回（平成 5 年）のホワイトシルバー、第 34 回（平成 9 年）のマキバサイレント、第 40 回（平成 15 年）のネームヴァリユーと、計 4 回ある。なお、外国産馬の優勝例はまだない。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「8」

騎手別の勝利数を見ると、8勝の的場文男騎手が単独トップ。2位タイの石崎隆之騎手、内田博幸騎手、高橋三郎騎手、福永二三雄騎手（各4勝）を大きく引き離している。

■ 3回以上の優勝例がある調教師はまだいない

調教師別の勝利数を見ると、2勝の赤間清松調教師、岡部猛調教師、川島正行調教師、北川亮調教師、庄子連兵調教師、遠間波満行調教師、福永二三雄調教師、森下淳平調教師、矢野義幸調教師、矢作和人調教師、渡邊和雄調教師がトップタイである。

■ 3～6枠の勝利数が多い

枠番別勝利数を見ると、6枠（10勝）が単独トップ。5枠（9勝）が単独2位、3枠と4枠（各8勝）が3位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、4番（7勝）が単独トップ。3番、5番、7番（各6勝）が2位タイ、1番と6番（各5勝）が5位タイである。なお、未勝利の馬番は16番だけだ。

<伊吹雅也>